

<発表内容>

参加者19名（保護者16名 教員3名）（女性15名 男性4名）

◎家庭教育について、学校・家庭・地域の連携が提唱され久しいが、①役割②課題③方向性（どうすればよいのか）が曖昧である。

子供との関わり方と連携を2つの柱として、話を進めたい。

1. 子どもとの関わり方について

1) お手伝いについて（自由意見）

- ・子どもにお手伝いをさせている⇒家の決まりごと
- ・子どものお手伝いにご報美を与えている⇒必要・不要賛否両論あり
- ・子どものお手伝いは家族の一員としての役割⇒社会的な役割を教育できる
- ・お手伝いの中に社会的学習要素がある⇒成人までに必要な価値観や役割を身に付けることが出来る

2) 子どもを変えたひとこと（自由意見）

- ・偶然見かけた小さな事柄でも誉め助言する⇒物事を継続するきっかけとなる
- ・水泳大会で入賞できずにがっかりしていたが、4位になったことを誉めた⇒競争心に目覚めた

※家庭内で様々な子どもとの関わり方があるが、どれも「家族の一員」として対応することが大切に思われる。

2) しつけ＝家庭内での考え方（自由意見）

- ・他人を思いやる気持ちが足りない⇒自分が嫌な事を平気で他人する
- ・高い教育（高学歴）を受けた親に教養が足りない⇒子どもから親の顔が見えない
- ・自由には責任が伴うことを教育していない⇒モンスターペアレントの発生
- ・子どもが成長するにつれ、親同士の価値観の差が拡大する⇒親同士の共通項、共通理解は難しい
- ・子どもとのスタンスは変えない⇒自我や自尊心は尊重する
- ・中学生になるとお金に使い方や遊び方が変わる⇒他の家とは違う我が家のルールを確認する
- ・経験上小遣いの違いが友人の違いとなる⇒アンバランスな交友関係は成り立たない
- ・海外生活を経験し家族で一緒に食事をするのが大切⇒家族で共有する時間を必ず造る

※しつけ＝親の責任であることは、誰しもが認識してはいるが・・・

3) しつけ＝親の果たす責任について（自由意見）

- ・家庭で行ってきた教育の「外注化」が進んでいる⇒親の教育力の低下
- ・水泳は専門性があり、小学校高学年以上の学習などは高度化している。これは「外注化」ではなく「分業化」ではないだろうか。
- ・勉強しろとは言ったことがない⇒本人の自覚を促し、自分で勝取る力を身に付けさせたいから
- ・何でも出来る子どもにしたい⇒何でも出来ないのはダメなことではない

※親同士が連携し、情報を共有化することが大切だが、その場所が不足している。

・親同士が顔を合わせる機会が少ない⇒生活圏が拡大し、地元商店などかつての「井戸端会議」をする場所が無い

・同じ学校の保護者である意識がない⇒給食費の不払いやモンスターペアレントの発生

※親としての自覚が無くなってきている。

